

学会名 リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島 2023年10月26日・27日

研究テーマ 超高齢小脳梗塞患者に対してSARAをもとにバランスや運動失調改善に着目した結果、屋内歩行が自立し自宅復帰に繋がった一例

病院名 医療法人社団健育会 ねりま健育会病院

演者 ○発表者 理学療法士 奥川裕介
共同演者 岸下亜希子(理学療法士)、間藤大輔(理学療法士)、松本優貴(作業療法士)

概要

【目的】

広範囲の両側小脳梗塞によりバランス低下・軽度運動失調を呈した患者にSARAの項目に基づいたリハビリ介入で改善が得られたため報告する。

【方法】

90歳代後半男性。X月に両側小脳梗塞となり保存的加療、第45病日に当院へ入院。既往は高度難聴・緑内障による右失明。脳画像は、両側小脳半球に梗塞があった。入院時Functional independence measure (以下、FIM) は運動項目30点。Scale for the Assessment and Rating Ataxia (以下、SARA) 14点で両下肢に軽度運動失調。Berg balance scale (以下、BBS) 19点、歩行評価は測定困難。理学療法ではバランスと運動失調に着目しフレンケル体操、リーチ動作や歩行訓練を行った。

【成績】

退院時、FIMの運動項目は77点、SARA6点、BBS46点、6分間歩行試験が160mに改善した。屋内フリーハンド歩行が自立し、サービスや環境調節後に自宅退院となった。

【結論】

SARAの歩行自立カットオフ値は8点・自宅退院は14点以下とされている。SARAはBBSと強い相関があるとされ、理学療法ではSARAの減点項目に関連した動作にアプローチした。その結果バランス改善とフリーハンド歩行自立となった。できる動作が増え運動意欲向上したことで、日常生活動作獲得し自宅退院に繋がったと考える。